

アンタゴニズムを超えて！

—Beyond Antagonism—

戦後の世界情勢は、二超大国の、核によるバランス・オブ・パワーの下で、奇跡の和平を維持してきました。しかし今日、防衛予算の増強、SS-21の配備、SDI構想等の新たな火種により、アンタゴニズム（対立主義）の時代へと、その危機的情况を増大させつつあります。しかし、本当に社会制度の違いが「敵対」の真の対象なのでしょうか。

一度、目を宇宙に向けると、既に人は月に立ち、更に宇宙に実験工場を持つに致っております。この宇宙からのグローバルな観点をもって地上を眺め直した時、私達の敵対せねばならない真の相手とは何なのか、一目瞭然として了解される筈なのです。

それは、国家独占資本主義のイデオロギーでもなければ、私的資本主義のそれでもありません。それは、この地球そのものを蝕む〈環境破壊〉という生きとし生けるものの生存を脅かす、魔の力なのです。

酸性雨、表土流失、自然林の後退、放射能汚染の脅威。これらは、社会制度の違いに関わりなく、ジワジワと全世界に広がりつつあります。こうした環境悪化こそ、人類が連帯して克服せねばならない相手なのです。こうした認識に立ち、今こそ、私達是对立する社会制度の壁を乗り越えて、真の世界平和を実現する新たな思想を創り出す為に全力を傾ける時であることに気づきます。

来るべき【市民の世紀】を迎える為には、全人類が真に連帯し、対立主義の思想を乗り越える新たな〈希望の思想〉が、必要とされます。

平和展の実現は、アンタゴニズムを超える、希望の思想を、芸術家が、作品を通して探り出し、発見しようとする試みとなります。

私達は、西ドイツに次いで、神奈川の地で「芸術——平和への対話」展を、企画しました。これを成功させることにより、政治家に代って、平和実現の為の代案〈希望の思想〉を、非核兵器宣言自治体である、神奈川の地で提案したいと考えます。

神奈川「芸術——平和への対話」展 実行委員会

代表 若江 漢字